

## 1. 学校名

三原市立木原小学校

## 2. 活動テーマ名

スナメリプロジェクト

## 3. 実践の概要・ねらい

三原市立木原小学校は、広島県三原市と尾道市の境にあり、瀬戸内海沿岸にあります。豊かな海と美しい景色、そしてそこに住む温かい人たちによって発展してきた魅力あふれる地域です。

この木原沖（学校のすぐ目の前）に2つの島「大鯨島」と「小鯨島」があり、かつて40年前には「スナメリ」がすんでいました。今は見られなくなってしまったスナメリをもう一度この木原に呼び戻したいという願いのもと、平成27年度に「スナメリプロジェクト」を立ち上げ、学習を進めています。

木原小学校の児童は海の近くに住んでいるにもかかわらず、海での体験や海の知識がほとんどありません。海辺は護岸コンクリートで覆われ、児童にとって海は遊ぶところではないからです。そこで、プロジェクトを進めていく上で、児童が海に対して興味をもち、親しみを感じ、学びたいという気持ちを育てることが大切であると考えました。また、プロジェクトを継続させていくために、全校児童や地域へ学習の成果を発信し、学校の宝・地域の宝にしていく必要があると考えました。

以上から、「スナメリを木原の海に戻す」ために、「木原の海を豊かにする」という目標を立て、①木原の海を調べる（鯨島調査）、②海のゆりかごとと言われるアマモを増やす、③海の達人（海に携わっている人）への聞き書きの3つの活動を主として学習を進めています。

## 4. 実践計画

### ①活動計画

#### (1) 木原の海を調べる（鯨島調査）

- ・春、夏、秋、冬季節ごとに水質と生物の調査をする。
- ・鯨島に3つの調査地点を決め、どんな生物がどれくらいいるのか調査する。
- ・調査結果を比較、分析し、今後の活動につなげる。

#### (2) アマモの栽培、植え付け

- ・春にアマモの種子を鯨島に植える。
- ・夏にアマモの種子を採取し、秋に種子選別をする。
- ・学校の水槽で苗を育てる。

#### (3) 海の達人への聞き書き

- ・地域のお年寄りの方に昔の木原や鯨島の様子についてインタビューをする。
- ・宮島水族館を見学し、スナメリや瀬戸内海について学習を深める。
- ・インタビューや学習したことを壁新聞にまとめる。

#### (4) 活動の発信

- ・広島県科学賞に研究を提出する。
- ・学習発表会（11月）に地域や全校へ活動報告をする。
- ・他校（岡山市立小串小学校）と活動報告の交流をする。（ビデオレター）

### ②実践の評価について

- ・鯨島調査の蓄積
- ・壁新聞や活動をまとめたもの等の成果物

5. 今年度の実践

(1) 木原の海を調べる (鯨島調査)

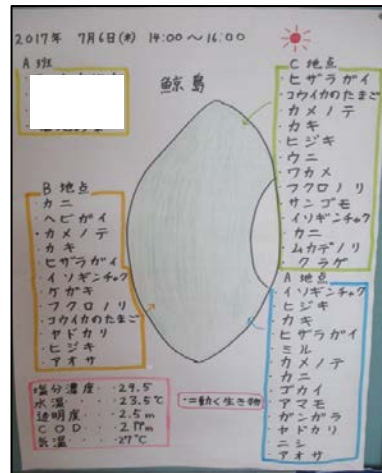
木原の海はどんな海であるのかを知るために、大鯨島に3つのモニタリングポイントを設定し、季節ごとに生物調査をしています。また、船上での水質調査を行っています。

生物調査では、その地点で見られた生物名とどのくらいいたのかを記録します。記録したことをもとに、マップや表にまとめます。

水質調査では、船上から透明度板を海へ降ろし、海の透明度を調べます。また、採水器を海へ降ろし、海底の海を採取し、塩分濃度やCO<sub>2</sub> (化学的酸素消費量)、水温を調べます。

モニタリングポイントを決め、定期的に生物・水質調査を進めることで、木原の海の特徴を知り、新たな課題発見へとつなげていきます。

鯨島調査は、瀬戸内海エコツーリズム協議会のご指導のもと、三原市漁業協同組合のご協力のもと行っています。



地点	ヒサラガイ	コウカイのたまご	カメノテ	カキ	ヒジキ	ウニ	ワカメ	フクロノリ	サンゴモ	イソギンチャク	ムサシノリ	クラゲ
1地点	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
2地点	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3地点	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

(2) アマモを増やす (アマモの苗づくり)

「海のゆりかご」と呼ばれ、海の生物のすみかとなり、海の水質を向上させる「アマモ」の苗を育て、大鯨島に植える活動をしています。児童は、アマモを増やすことで、スナメリの餌となる海の生物を増やし、水質の改善を図ることができ、その結果スナメリが戻ってくると考えました。

初夏の6月ごろに、アマモの種取りをします。採取したものを約3ヶ月間、海につけて葉を腐らせます。秋(9月下旬~10月)に、良い種子を選別し、苗床をつくります。人工海水につけ、苗を育てます。春(4月)に育てた苗を植えます。1年を通して、アマモの苗づくりをします。



(3) 海の達人 (海に携わっている人) への聞き書き

海と長年付き合ってきた人たちから話を聞くことで、その方々の長年の知恵を学んだり、海に対する思いを感じたりすることで、新たな学習課題の発見や学習への関心を高めることができると考え、「聞き書き」に取り組んでいます。

平成28年度に、NPO法人共存の森ネットワークの事務局長 吉野奈保子さんから「聞き書き」をご指導していただき、三原市漁業組合の漁師さんから瀬戸内海や海での漁等について取材をし、壁新聞にまとめるという学習を行いました。児童は海の近くに

住んでいながら、海について全然知らなかったことに気づき、海についてもっと知りたいという気持ちになりました。

その後、福山大学マリンバイオセンターの先生方や宮島水族館の飼育員の方々に聞き書きをし、海についての知識を深めました。また、木原の海にスナメリがいた頃を知る地域の方々にも聞き書きをし、昔と今の地域のちがいを知ることができました。

#### (4) 活動の発信

春と夏の調査結果をもとに活動をまとめ、広島県科学賞に応募しました。三原市の審査では金賞を、広島県の審査では入選をしました。

学習発表会では、これまでの学習をプレゼンテーションソフトでまとめ、発表をしました。全校や地域へ発信しました。

同じような活動をしている岡山市立小串小学校へ活動報告をまとめたビデオレターを送り、互いの活動を学びました。



#### 6. 成果と課題

- 海に対しての興味、関心を高めることができた。様々な人たちとの出会いから、見方・考え方を広げた。
- 学習を下級生へつないだり、地域へ発信したりすることで、学校の宝・地域の宝になりつつある。
- 活動の基盤ができたばかりで、まだ児童の主体的な課題発見、追究につながっていない。
- 鯨島へ行くために船を借りなければならず、多額の資金が必要で、助成金に頼っている。3つの活動を継続して取り組み、データを蓄積し、整理・分析をすることで、学習の深化を図っていききたい。また、同じような海洋教育をしている学校との交流・連携をし、学習につなげていききたい。さらに、地域の宝として地域に根差した活動になるように地域連携を図っていききたい。

#### 7. 主な連携機関及び内容

- ・NPO 瀬戸内海エコツアーリズム協議会…調査、アマモ栽培指導
- ・三原市漁業協同組合…調査のための船の借用
- ・岡山市立小串小学校…活動報告についての相互交流
- ・三原市管財課…鯨島の調査許可